

令和 3 年度 県立水戸南高等学校（定時制・昼間制）自己評価表

目指す学校像	「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる高校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる 3 つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 J R 水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・就職希望者の多くは就職できた。進学では、個別指導で実力を養成し、国公立大学 2 名を含む 15 名が合格した。（定時制） ・ 今後は、進路実現への具体的・実践的なステップを提示し、最後まで諦めないで進路実現を目指すための継続的な指導が必要である。 ・基礎・基本を重視した授業の実践により、多くの生徒に基礎学力の定着が見られた。今後は、ICT の活用により、生徒の興味・関心を高め、より主体的に取り組むための授業改善が求められる。 ・不登校経験者が 6 割を超す中、生徒に寄り添った指導を継続的に行うことや、スクールカウンセラー等、外部人材との連携により、生徒が大きく変容することができた。今後も、個に応じたきめ細かい指導・支援を充実させる。 ・様々な支援事業等の活用や各種体験活動・生徒会活動により、人間力が向上している。学校行事をはじめとする学校生活への積極的参加を促し、より一層充実した高校生活を送らせたい。また、ボランティアや各種コンテスト等に取り組みさせることにより、個性のさらなる伸長を図りたい。	・望ましい勤労観・職業観の育成及び主体的な進路選択と進路実現	・キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 ・日頃の教育活動全般をととしたキャリア教育に努め、様々な状況に応じて適切な進路指導を行う。 ・生徒の特性や進路希望に合った資格の積極的な取得を目指す。 ・最後まで諦めず、妥協せず、挑戦する勇気を持ち、進路実現を目指すよう継続的に指導する。	A
	・基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・ICT の活用等により、生徒の関心・意欲を引き出し、学ぶ喜びやわかる楽しさを実感できる授業を行うとともに、授業の中で自分の考えや意見を表現できるよう工夫・改善を行う。 ・「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。	B
	・生徒指導及び一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	・一人一人に寄り添った指導によって基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 ・学校生活や様々な体験活動をととして、マナーやモラルの向上とさらなるコミュニケーション能力の育成を目指す。 ・道德教育を含む教育活動全体をととして自他共に尊重できる姿勢を養い、いじめのない生活環境を整える。 ・スクールカウンセラーや社会人相談員、キャンパスエイド等、外部人材との連携により、生徒一人一人に応じた支援を充実させる。また、学習や生活上の困難に対する個に応じた指導の充実を図るとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解に努める。 ・ボランティアや各種イベント、コンテストなどへの積極的な参加を促す。	A
	・特別活動の充実	・南祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事をととして主体的に行動できる態度を養う。 ・部活動の活性化を図り、意欲的な取組と積極的な定通大会へ参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを有効に活用し、主体的に学びに向かう力を育むとともに、自己実現につなげていく。	B
	・教職員の資質向上（働き方改革）	・校内外の積極的な研修参加により、教職員としてのスキルアップに努める。 ・中でも、ICT 活用やアクティブ・ラーニング等の研修を行うことで、授業改善や業務の効率化を図っていく。	B

		・情報発信による学校への理解促進	・ホームページやパンフレット、リーフレット等を通じ、学校行事等の様子を発信する。 ・中学校等を訪問又は公開等を行って、本校のさらなる理解促進を図るとともに、入学者の確保に努める。	A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 【水戸南高校の学びの場で、「これから」の自分に向き合う資質・能力を身に付けて、困難に負けない自分を創る】 ○いつでも「これから」(未来)を意識し、「得たこと」よりも「やり続けること」に価値を感じながら、学び続けていくことの楽しさを資質として習得する。 ○世の中の成り立ちを知り、面白いと感じる分野と出会い、自分にプラスをもたらす人に出会い、自分の秀でた部分に出会い、高校時代に第1歩を踏み出す。 ○困難を乗り越えてきた経験も自信に変え、何度でも立ち上がれる人になる。「今までどおり」が通用しない未来において立ち上がる力を磨く。この場所で過ごす「高校生活の日々」の大切さが将来の自分の糧になる。 ○「自分にはできない」とあきらめず、「今はまだ、できないだけ」ととらえ、一人一人が目標を実現可能と信じ、自分の「学びに対する好奇心」に火を点ける。 ○学びの中で「自分にはどのような力があるか」と自己探究し、「将来何になることができるか」、「なりたい自分になる」など、自分の強みと本来の個性を表現できる資質を養う。 ○個性と多様性を大切にする自由さの中で、自立と自律の能力を磨く。自分の目標と今の自分がどう違っているかを見極めて、自分で修正できる力を身に付ける。		B	「自分」を知り、「自分」と向き合い、予測困難なこれからの時代に立ち向かうことのできる力を身に付けさせる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 【単位制の特色を最大に活かした水戸南高校の学びで、自分の意思と選択で学べる時間割を提供し、一人一人のニーズに応える】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」のため、単位制の特色を活かす。学びの積み重ねによって3年間で卒業でき、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にする。 ○全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される水戸南カリキュラム。自分のペースの学びを実現し、生徒の個々に合わせた独創的・挑戦的な学びを展開する。 ○生徒主体のカリキュラムにおいて、自立した個人として授業に参加することで、自らが学んでいるという当事者意識を高め、より深く学ぼうとする意識を向上させる。 ○それぞれの教室においては、「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」となるような雰囲気醸成され、学びが安全安心な場であることを約束する。 ○「今はまだできないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、自分を変えていく力を認知する。 ○義務教育の9年間では、誰もが苦手と感じる分野を持つ。高校生活スタートで誰もが必要とする基礎・基本の学びを導入し、高校での学びへの移行をスムーズにする。 ○ICTを有効に活用する。タブレット等を活用することで、自分の意見を伝達が苦手な生徒にとってもハードルが低くなり、自分との対話ができることから人との対話が可能になっていく。		B	個々の生徒が、学びの積み重ねを意識できるような魅力ある授業作りをしていく。

		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【「これまで」よりも「これから」を重視し、今あるものを良いと感じられ自分と相手の大切さを感じられる人を求める】 ○水戸南高校は一人一人の可能性の開花と、自己調整力の向上を目指している。“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という思いから、生徒が本来持っている力を呼び起こし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導いていく。「種は内に持っている。水が注がれば花が咲く」という考えの下、生徒の発達や個性に寄り添う場であることを知って欲しい。 ○良いものを良いと思い、普通にあるものを大切に感じ、あたりまえにあるものの価値を考えられる人、今はまだ未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」とともに考え、自分のことも相手のことも大切に考えられる人に、本稿に入学してもらいたい。 ○教員は、生徒一人一人の持つ能力と向き合って日々懸命に教育活動に取り組んでいる。生徒に安全と安心、そして安らぎを提供したいと考えている。 ○進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共有するのが水戸南高校の特色。水戸南高校を点数や偏差値等のモノサシで選ばずに、自分の感性と選択で本校に入学してもらいたい。	A		安全安心な学校、生徒の個性を尊重し成長を促すことのできる学校であることを周知し、その中で「自分」の可能性を信じ、「自分」を高めていける生徒を求める。
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		基礎学力の確実な定着を図り、主体的な授業態度を確立する	・授業内容の充実を図るとともに、生徒が「わかる」楽しさを実感できる授業展開を目指す。	A	A	・基礎基本を重視した指導はどの教科においても十分行われているが、ICT機器の活用については課題がある。今後、研修等を行いながら、より効果的な活用を目指す。
			・基本的な学習態度や個性を伸ばし、主体的に学ぶ姿勢を育成する。	A		
			・教材・学習方法の工夫やICT機器の効果的な活用などにより、生徒の学習意欲を高めるとともに、積極的な授業への参加を促す。指導方法の改善を進め、授業規律の確立を目指す。	B		
教科	国語	基礎・基本の定着を図る	・生徒の学習状況を把握し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。	A	A	・基礎基本の定着を重視し、生徒の実態に応じた指導は教科全体を通してできたが、特に成績上位者へのより手厚い指導の必要性がある。 ・漢字検定以外に課外や個別指導の充実を図る必要がある。 ・漢字検定受検希望者の増加を目指す。
			・小テストを行い、定着度を確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。	A		
		生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める	・習熟度別にクラスを編成し、生徒の能力や適性に応じた指導を行う。	B		
			・多様な生徒に対応できるように、学習形態を工夫するとともに、ICT機器の活用によって興味・関心を高める。	A		
			・漢字検定を奨励し、漢字や国語に親しむ態度を育てる。昨年同様、検定合格者増を目指す。	B		
	地歴	地域の類似性・相違性を判断する力を培う	・地理的事象を、国際社会の変化を踏まえて公正に思考・判断し表現する力を養う。	A	A	・成績上位者の学力を伸ばすとともに、基礎力がない生徒の指導にも力を入れたい。 ・新教育課程に対応した指導法や使用教材についての研究を推進
			・ICT機器を活用して地図や統計などの諸資料を読み取り、追及した過程や結果を表現する力を育てる。	B		
		・ICT機器を活用して地図や統計などの諸資料を読み取り、追	・新聞、統計、ICT機器などの資料を用いて、歴史的事実を思考する力を養う。	A		
			・副教材を資料として活用し、歴史的事象を公正に判断する力を身につける。	A		

【別紙 3】

教科	保体	健康に対する興味・関心を高める（保健）	・ICT機器を活用することで、自己や他者の健康への興味・関心を高め、日常生活でも積極的に実践できるよう促す。	A		積極的かつ主体的に行えるような授業環境の工夫。
			・最新の感染症情報に関心を持たせ、学習内容と感染症対策を日常的に意識させる。	A		
	芸術	芸術分野における思考力の向上を目指す	・実感の伴う具体的な経験活動を重ねることで、自己の感性への理解を深め、芸術文化と豊かさに関わる資質・能力を育む。	A	A	・生徒の個人端末を振り返り活動などに活用できるICT機器活用の工夫。 ・話し合い活動の苦手な生徒でも取り組める対話的活動の設定の工夫。
		授業計画の適性化を図る	・わかりやすい説明を心掛け、効果的に制作や表現ができるようにタイミングを考えた指示を工夫する。	A		
			・生徒の実態を合わせ、段階的に理解を深められるような課題を設定する。その際、ICT機器も効果的に活用する。	A		
		主体的に関わる姿勢を育む	・対話的活動を多く設け、自己と他者の感性について考えを深め、物事に対して主体的に取り組む態度を引き出す。	B		
		学習環境の充実に努める	・施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。	A		
	英語	基礎学力の定着を図るとともに、4技能の使用を意識した指導を行う	・コミュニケーション英語Ⅰの授業において基礎基本の理解と定着を図り、学習意欲の喚起に努める。	A	A	・基礎基本の定着のために、長期休業中などに家庭学習課題による練習を強化する必要がある。 ・コロナ禍で本年度はALTの来日が叶わなかった。そのため授業進度が例年と異なったことを考慮する必要がある。 ・ICT機器の利用は、生徒の接続環境が統一されればより進めることができる。
			・個々の生徒の特性に留意しながら4技能を用いた言語活動の場を設けた授業づくりに努める。	A		
		英語に対する興味・関心を高める	・ALTを活用して、英語を使う楽しさを実感させる。	B		
			・英検受検やスピーチコンテストへの参加を勧める。			
		ICTの学びへの活用	・整備されたICT機器を活用して学習活動の一層の充実に図る。	A		
	家庭	実験・実習を充実させ、生活的自立に向けて基礎学力の向上を図る	・生徒の興味・関心を引き出すために教材を工夫したり、ICT機器の活用等によって授業を改善することで主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	A	A	・ICT機器の活用は、教員側としてはほぼ毎回の授業でできていたが、実習室のWi-Fi環境が整うとより進めることができる。また、生徒側としては接続環境が整うと更に授業での活用を進めることができる。 ・生徒の実態に即した分かる授業の展開、教材の活用、体験的・課題解決的な学習を増やすことで、主体的・対話的で深い学びにつながり、思考力・判断力・表現力の向上につながった。今後も指導法
			・実験、実習、演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を向上させ、人間性を育成する。	B		
・基礎的・基本的な知識・技術を理解させ、実践的な能力態度を身に付けさせる。製作実習では、完成までのプロセスを重視し、きめ細やかな指導を行い達成感を持たせる。			A			
・専門教科における技術検定試験の指導を通して学びに向かう力を育成し、合格率を引き上げる。			A			
		学習環境の整備と安全教育に努める	・施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。	A		

教科						を研究しながら実践していきたい。
	商業	商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・基礎的・基本的な知識・技術・判断力の確実な定着を図る。そのために、I C T機器も効果的に取り入れる。	A	A	・社会性の向上と、グループ活動を重視したコミュニケーション能力の向上を図り、活発な授業を展開する。
			・生徒の学習の理解度を把握し、必要に応じ個別にフォローする。	A		
			・教科の特色を活かし集中力を高められるような学習活動をおこない、他教科の学習指導に対しても効果をもたらせるような「学習脳」の養成を図る。	B		
			・職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	A		
	情報	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う	・基礎的・基本的な知識・技術・表現力の確実な定着を図る。	A	A	・生徒が互いに教え合う環境を整え、情報モラル・リスクの意識向上に努める。
			・情報と情報活用技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けさせる。	A		
			・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。	A		
教務		行事運営の工夫に努める	・各部との連絡調整のもと、行事・日程等のスクラップ&ビルドを積極的に行い、「働き方改革」に抵触することがないように効率的な運営を図る。	B	A	・「働き方改革」を机上の空論にしないための取り組みの研究に努める。 ・新教育課程に対応したシラバスの作成について、各教科と連携を進め、生徒に向けて科目や授業等の情報を提供に努める。 ・教務が企画する行事等の担当者を明確にし、作業の「見える化」に努める。
		教育課程の工夫に努める	・新教育課程に対応した教育課程の編成をしていく。	A		
			・履修指導の充実と生徒にわかりやすく説明しやすいシラバスの工夫改善を図る。	A		
			・学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。	A		
		教育活動の円滑な推進を図る	・校内諸規定の細部に渡って研究を行い、学校の現状に即した内容に整備する。	A		
			・奨学金制度の周知に努める。	A		
			・支援システムを活用して成績処理を円滑に行う。	A		
生徒指導		基本的生活習慣の確立に努める	・定期的な登校指導を通して、挨拶の励行、遅刻防止を呼びかける。 LHR や学年集会等を利用して、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。	A	A	・巡回中に把握した施設の異状箇所や生徒の異常行動・事故などを、早急に全職員間で情報共有する方策を構築する。 ・生徒指導に関する職員研修ができなかったため、オンライン研修など、有効な研修方や情報伝達法を構築していきたい。 ・休日や夜間における保護者への電話対応に負担が多いので、勤務時間外の電話対応は受け付けないなどのシステム構築（ハード面）が必要。
		教員間の連携を強化し、チーム学校として、規律ある、安全安心な学校生活の推進に努める	・全職員輪番で校舎内外を巡回し、日々の声かけにより生徒の状況を把握する。	A		
			・集会や講演会等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全な利用やマナーの向上について指導する。	A		
			・各学年主任、生徒指導相談員、生徒指導主事による情報交換会を月1回開催する。	A		
		本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う	・教育相談係との情報交換を密にし、個人に対してきめ細かな指導をする。	A		
			・授業や学校行事等をとおして生徒の自己有用感等を高め、互いに相手を思いやる心を涵養することによって、いじめの未然防止に努める。	B		
			・生徒や保護者から相談されやすい関係や環境を構築し、いじめの早期発見に努める。	A		
			・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解決に努める。	B		

【別紙３】

生徒指導		・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。	B		・休日や夜間における緊急対応の方策（ハード・ソフト両面）の必要性がある。 ・特別指導や生徒指導・通級指導をするための個室（特別棟の使用していない教室をパーテーションで区切っても良い）が必要。
		・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	B		
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める	・進路ガイダンスを実施し、生徒各自の進路に対する意識の高揚を図る。	A	A	・係分担の分配と再整理。 ・進路未決定者を極力減らす。 ・基礎学力の向上。 ・安易な進路選択を極力避ける。
		・面談・履修指導・適性検査等を通して生徒のキャリアデザインを援助する。	B		
		・進路指導室の充実に努め、生徒の進路研究および教師の進路指導に役立てる。	A		
	進路指導の充実に努める	・専門学校、大学の進学希望者に対し、進学先に応じたきめ細かな指導を行う。	A		
	就職指導の充実に努める	・就職希望者に対しては、ネットを利用した求人票を紹介し個別指導の徹底を図る。	A		
学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着	・生徒の興味関心を高めるようＩＣＴの活用、授業方法や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。	A	A	・ＩＣＴを活用した授業作りの推進を図る。 ・生徒たちの希望進路に合わせた課外講座の開講、課外受講者の増加を図る。 ・図書館の整備と来館者の増加を図る。
	視聴覚教育の充実	・視聴覚室及び視聴覚教材の整備と機器の更新を進める。	A		
	図書館の充実と利用の促進	・「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を果たすよう図書館内の環境整備、利用方法の工夫に努める。	B		
	教科書関係事務の円滑かつ正確な執行	・対象者へのわかりやすい提示の工夫をする。確認を徹底し、書類不備の減少を目指す。	A		
特別活動	生徒会活動の一層の活性化	・本部役員立案により、安心・安全を念頭においた魅力ある学校行事を計画・実施する。	A	B	・学校行事における、新型コロナ感染症対策の実績を生かした、新しい取組の構築。 ・キャリア・パスポートの活用における、進路指導部との連携及び活用できる取組の検討。 ・部活動、環境美化のさらなる充実。
		・ホームページ等を活用して、校内外へ積極的に情報発信する。	B		
	生徒の自主性を育む行事の運営に努める	・本部役員が主体となり、一般生徒の積極的な活動を支援し、自発的な活動を高める。	A		
		・本部役員が主体となって校内環境美化に努め、学校全体として環境を整える意識を促す。	B		
	キャリア・パスポートの活用について周知する	・教員が対話的に関わり、自己のキャリア形成や主体的に学びに向かう力を育む。	B		
保健	生徒の心身の健康維持増進を図る	・健康診断の受診率向上を目指す。また、検診を通して自主的な健康の保持増進を図る。	A	A	・感染症流行状況の変化に合わせ、予防対策等についても検討を繰り返しながら対応に努めた。 ・感染拡大による休業で火災避難訓練、救命救急法講習は中止となった。感染対策を行いながらの実施方法の検討を要す。 ・ゴミの分別意識は、３年生より１・２年生において高いことがゴミ収集作業をすると見て取れる。入学当初の指導が奏功している。
		・生徒の健康状態の把握、早期の問題解決に当たるとともに、感染症予防に努める。	A		
	生徒の健康と安全に対する知識の獲得と技能の向上を図る	・避難訓練と救命救急法講習を通して、安全に対する知識の獲得と技能の向上に努める。	D		
		・性教育講話・がん教育講話を通して、生命尊重の意識と望ましい人間関係の構築を図る。	A		
	校内の環境美化を推進するとともに環境問題に対する意識の向上を促す	・清掃作業や整備委員会の活動を通して校内の美化に努める。	A		
		・資源ゴミの分別がより進むように環境問題への意識向上を促す。	A		

【別紙３】

渉 外	P T A活動への会員の関心を高め、P T A行事への積極的な参加を促す	・役員や委員と連携し、会員が参加しやすいP T A行事の企画・運営を行い、各委員会活動の充実を図る。	A	A	・役員や委員と連携し、活動することができたので、継続していきたい。広報誌は予定通り発行できたが、ホームページによる発信を増やし、会員の関心を高め、行事への参加を促すことが課題。
		・広報誌やホームページを活用し、P T A活動についての理解や関心を高め、協力を促す。	B		
教 育 相 談	適応支援室の充実に努める	・適応支援室を通して、学校が安心な場所となることを目指す。 また、支援室スタッフとの連絡を密にし、教職員と連携を深めて指導の充実を図る。	A	A	・休校により、社会人相談員の活用や外部の研修機会は減少したので、茨城県教育情報ネットワークに教育相談関係専用のアカウントを作成し活用しよう模索した。今後、この活用方法が課題。研修による教職員の理解・実践の深化についてもオンライン研修等を活用していく時期にきていると考える。 ※アカウント作成は、あくまでもオンライン相談の窓口と考えて作成
	スクールカウンセラーとの連携に努める	・スクールカウンセラーを交えての事例検討を行う。スクールカウンセラーと担任及び関係職員との連携を深める。	A		
		・生徒対象のアセスメント活用法を模索する。	B		
	特別支援教育の理解と充実に努める	・校内研修、教育研修センターでの研修を通じて、特別支援教育の視点に立った教育活動への理解を深め、実践に努める。	A		
		・特別支援教育・通級指導委員会を定期的に開催し、合理的配慮や通級指導の共通理解を図る。	A		
第 1 年 次	高校生としての基本的生活習慣の確立を目指す	・オリエンテーションを実施し、学校のしくみを理解させ、学校生活を支援する。	A	A	(今後も継続して取り組む内容) ・基本的生活習慣の確立を目指し、自己管理能力の向上に力を入れる。 ・様々な問題を抱えた生徒に対し、複数教員での対応を継続して行う。 ・基礎学力の定着を目指し、日頃からの学習活動に取り組む。
		・生徒個別面談を適時実施し、生徒の状況把握に努める。	A		
		・機会あるごとに生徒に声をかけ、実態を把握し、生徒に寄り添った指導を行う。	A		
	多様な問題を抱えた生徒に適切に対応する	・養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラー等と協力し、情報の共有を図り、複数人で対応する。	A		
		・家庭との連絡を密にし、学校生活の様子などを知らせ、相互理解に努める。	A		
	基礎学力の向上に努める	・複数教員配置の学習支援を通して、授業にきちんと取り組む姿勢を育む。	A		
		・課外授業や常識テストを通じて、生徒に実力をつけさせる。	B		
第 2 年 次	基本的な生活習慣の確立に努める	・欠時数や修得単位数の情報を伝えて現状を正しく理解させ、一層の自己管理を促す。	A	A	・単位修得のための指導をしっかりと行い、来年度の卒業を目指す。 ・進路希望を実現するため、積極的な働きかけを継続して行う。 ・多様な問題を抱えた生徒について組織的な対応を図り、家庭との協力体制を整える。
		・機会あるごとの声かけや面談を行うことで生徒状況を把握し、昨年に引き続き、きめ細やかな指導に努める。	A		
		・家庭との連絡を密にすることで、家庭との協力体制を作る。	B		
	基礎学力の向上に努める	・H R・授業など、あらゆる機会を通して授業にきちんと取り組むよう促す。	A		
		・進学課外の受講や、模擬試験の受験を勧める。また、一般常識テストを継続的に実施する。	A		
	進路意識の向上を図る	・進路ガイダンスやホームルーム活動を通して、正しい職業観や勤労観を養う。	A		
		・個別面談を早期に実施し、生徒個々の目標と課題を明確にする。	A		

第 3 年 次	卒業を見据えた単位の修得を指導する	・出席状況を把握し、生徒・保護者との連絡を密にし、卒業を展望した単位修得を目指す。	B	A	・2年次終了時で取得単位数の少ない卒業予定生に、学校外学修や技能審査による単位修得を目指すよう、積極的に働きかける。 ・進学・就職ともに指導にあたっては、HR担任だけでなく、学年、進路指導部、さらには組織全体としてのサポート体制が構築できると良い。 ・コロナ禍の下、感染症対策をした上でも、テーブルマナーなど学校行事の参加者が少ない。どのように参加率を上げるかが課題である。
	進路希望の実現を図る	・必要に応じて個別面談を実施することで、機を逃さず適切な指導をする。	A		
		・進路ガイダンスやオープンキャンパス等への積極的参加を促す。	A		
		・進路希望に応じて、適切な個の指導を組織的に行う。	A		
	自律的な生活態度の確立に努める	・卒業後を見据え、あらゆる機会を利用して常識ある態度の育成に努める。	B		
	協調性の育成に努める	・学校行事への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力及び協調性の育成に努める。	B		

※ 評価規準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない